



風曉（絹本）

墨の香に誘われて、
幽玄の世界へ。
あなたも筆を
取ってみませんか。

忙中清閑を得て硯でゆっくり墨をすり、墨の香りや風雅を愛し描くことのできる水墨画は用具も少なく、どなたでも手軽に始められます。

日本の風土は千変万化であり、四季の移ろいの美しい景観や色彩豊かな花々がさまざまな表情を見せてくれます。その自然から受けた新鮮な感動をスケッチブックに描きとめておけば、一本の筆に託し、墨の濃淡の美しいにじみやグラデーシオンで描くことのできる水墨画。私たちの生活に限りない喜びと生きがいや潤いを与えてくれることでしょう。



玉聖

黎明 (絹本)

また、パソコンやスマートフォンが普及し、手書きの手紙が少なくなった現代だからこそ、自筆の年賀状や暑中お見舞いは大変喜ばれたり、部屋に飾って楽しむこともできます。

水墨画の自由な筆意と紙と墨の微妙なコントラストの美しさは無限の変化があり、独特の画法で日本の伝統文化のひとつとして多くの人々に愛されています。今や、世界各国から高い評価も受けているのです。

本書は、筆の持ち方、墨のつけ方などの水墨画の初歩から、基礎画法や調墨法を学び、それぞれのテーマで作品制作へとできる限りわかりやすく紹介しました。水墨画を始めた方や、初心者のためにお役に立てれば幸いです。

塩澤玉聖

改訂新版

初心者のための

水墨画入門 目次

2 はじめに——
墨の香に誘われて、幽玄の世界へ。
あなたも筆を取ってみませんか。

第1章 道具選びと基本の筆運び…6

- 7 筆
- 8 墨
- 9 硯
- 10 紙
- 11 その他の道具
- 14 持ち方と構え方
- 16 筆に慣れてみましょう
- 20 墨の濃淡を変えてみましょう

第2章 基本の描法…22

- 23 ふたつの筆運び
- 24 調墨の技術を覚えましょう
- 26 作品1 ● りんどう
- 29 作品2 ● あけび
- 32 練習 さまざまな葉
- 34 作品3 ● 竹
- 39 コラム 空間(余白)の使い方を意識しましょう



第3章 応用の描法…40

- 41 作品4 ● 二色の花菖蒲
- 46 作品5 ● 老松
- 52 作品6 ● あざみ
- 59 コラム 顔彩について
- 60 作品例

第4章 日用品を水墨画で飾る…72

- 73 作品7 ● つばめ
- 78 作品8 ● 朝顔
- 82 こんなものにも、描いてみましょう
紅梅 いが栗 春蘭 土筆 金魚
- 86 作品例

第5章 季節のあいさつ状を描く…90

- 91 千支を描きましょう
- 97 その他のモチーフを描きましょう
- 100 コラム 落款の押し方

103 おわりに



道具六選びひと 基本の筆運び

「文房四宝」と呼ばれる筆・硯・墨・紙。

これらが水墨画の主な用具です。

すべて画材店で購入することができ、

高価なものをそろえる必要はありません。

また、お手元に書道用のものがあれば、

まずはそれを使うこともできます。

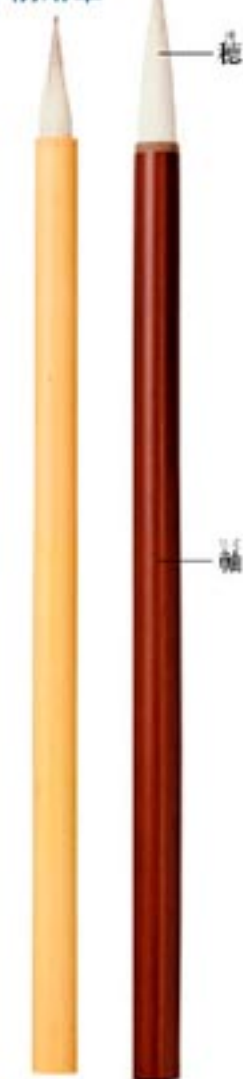
用具に親しむところから、

気軽に始めてみませんか。



筆

没骨筆
削用筆



● 価格の目安
2,000～3,000円程度のもので可

水墨画の基本となるのが没骨筆で、水墨画全般をこの筆で描くことができます。

初めて買うなら、大・中・小の大きさのうち、大を選びましょう。穂が大きく水分をよく含み、面や線などさまざまな表現を描くことができます。含ませる水分を少なくすれば、細い線なども描くことができ、利用範囲が広いのです。

もう一本そろえる場合は、細い線など細かな部分を描くのに適した、削用筆があると便利です。穂にコシがあり、線の強弱がつけやすい筆です。

書道用の筆も使えますが、穂全体が羊毛で作られているためコシがありません。水墨画用の筆は、穂先の中心に馬など他の動物の毛が入っているのでコシがあり、描きやすく作られています。

筆の管理

使い終わった筆は、水で十分に墨を洗い流します。筆にコシがなくなってしまうので、シャンプーやせっけんを使うのは避けましょう。洗ったら乾いた布で押さえるようにして水気を絞ります。穂の付け根に水がたまっていると、そこから腐って毛が抜ける原因となるので、濡れているうちは筆立てに立てず、洗濯ばさみなどでつるして穂を下にし、直射日光を避けて乾かしましょう。完全に乾いてから、しまってください。

筆のおろし方

筆を使い始めるときにまず行うのが、筆をおろす作業。穂を固めているのりを取り除き、穂の毛をはぐすことです。穂にのりが残っていると墨の粒子がそこにつき、そのまま描くと糸を引いたようになってしまいます。のりを残さないようにきれいに洗い流すのが第一です。



1 筆を水につけます

のりで固めてある穂は、手でほぐしたりせず、まず水につけてのりを溶かします。穂の付け根まで浸るように、水の中につけます。



2 しばらくおいてのりを溶かします

10～15分ほどつけておくと、のりが溶けて、穂がふくらめます。穂の芯のところが柔らかくなるまで、つけておきます。



3 のりを洗い落とします

穂を押さえるようにしながら、べたつきがなくなるまで洗い、きれいな水でゆすぐみます。水道水を流しながらゆすいでも構いません。

ポイント

- 筆は、大切に使えば数年は十分にもちます。使い込んで穂先がすれて丸まってきたものも、樹木や岩のごつごつしたところを描く、墨をかすれさせた表現に活用できます。
- 顔彩（59ページ参照）などを使う場合は、別の筆があると便利です。

墨

墨には、色の違いによって茶墨（油煙墨）と青墨（松煙墨）があります。濃いとどちらも真っ黒で色の違いはほとんどわかりませんが、薄めると色の違いが出ます。薄めたときに墨色に濁りがなく、透き通っているのがよい墨です。

また、日本製の墨（和墨）と中国製の墨（唐墨）という分類もあります。墨を固める「膠」が違い、中国の墨は魚の膠、日本の墨は牛の膠を使っています。中国の墨のほうが日本の墨より硬く、より硬い硯と相性がよい傾向があります。

どのような墨を使うかは好みによるので、色見本を見て選んでください。冬景色などには温かみのある茶墨の色より青墨の色のほうが向くなど、描くものに合わせて使い分けることもできます。水墨画は墨を薄めて使うので、書道よりも墨が長持ちします。よい墨ほどデリケートですので、きちんと管理して、長く使いたしましょう。



茶墨(油煙墨)

茶色みがあった、温かみがある色です。柔らかな印象の画に仕上げるのに向いています。



青墨(松煙墨)

青みがあった、涼やかな色です。シャープな印象の画に仕上げるのに向いています。

● 価格の目安
3,000～4,000円程度のもので可

ここに注意

墨をすった後のすり口（硯に当たっていた面）は、水分を含んでいるため、そのままおくと乾燥しひび割れてきます。水分は拭き取っておきましょう。